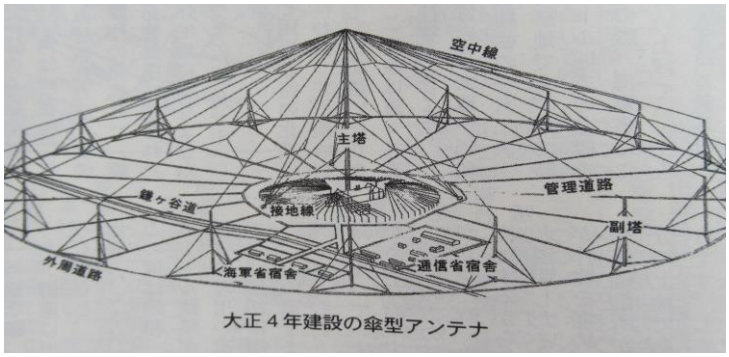
55 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力（26）
―産業遺産(1) 船橋海軍無線電信所船橋送信所跡―

29 期　仲田 元昭

今回から日本の大正・昭和を支えた船橋の産業遺産 3 ヶ所をご案内です。最初は、西船橋駅より徒歩 20 分程、平成 20 年（2008）に経済産業省から近代化産業遺産群 続 33 に指定された、東洋一を誇る船橋海軍無線電信所船橋送信所跡（地元では行田無線と言う）をご案内します。

「船橋海軍無線電信所跡」

日露戦争後、海軍の行動範囲が更に拡大し多くの艦船同士や陸上との迅速な情報のやり取りが必要となり、巨大無線塔建設が喫緊の課題になり、大正 4 年(1915)4 月東洋一を誇る船橋海軍無線電信所が完成しました。



大正４年建設の傘型アンテナ

無線機器一式はドイツのテレフンケン社製を採用しましたが、大正 3 年（1914）に第 1 次世界大戦が起こり、日本もドイツに宣戦布告したため、技術者が図面を焼却して帰国し、機械は放置されたままのため、日本の無線技術者達は総力を結集し苦労の末に期限通り完成させ、世界最強の無線電信所の仲間入りを果たしました。

規模は、直径 800m の円形敷地の中心に高さ 200m の主塔があり、周りに等間隔で高さ 60mの副塔を 18 基建て、主塔とアンテナ線を放射線状に結ぶ傘型のものでした。(上段の模型)

「マップで見る無線所跡の円形道路」

円形道路はそれを管理するために作られたもので、大変珍しい円形道路が現在も残っています。

「航空写真で見る円形道路・やや斜めから」

第二次世界大戦における米英への宣戦布告・真珠湾攻撃“ニイタカヤマノボレ　一二〇八”はここ船橋海軍無線電信所から発信された基地として知られておりますが、全国各地の有力海軍無線基地で「傍受すると同文の打電」を繰り返し世界に散らばっていた日本軍に発信されたと言われています。

一時期、逓信省船橋電信送信所も併設され、船橋送信所～サンフランシスコ間の対米国際無線通信が開始されました。海外を航行している船員に大相撲の結果を知らせる等民間向けにも使用され、また関東大震災では東京の通信網が遮断されたが、船橋海軍無線電信所は被害がなく、東京への医師・看護師の派遣や救援活動の無線に使われました。

（参考図書：船橋地名研究会資料その他）「56 我が街 船橋を歩くに続く、2025-6-1 寄稿」